

登録コード:MH228300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	神経・筋機能検査学実習【20M以降】 Neurophysiological Examination		
担当教員	矢崎 正英 平 千明・新井 慎平		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	検査技術科学専攻3年 前期 月曜・2時限		
単位数、講義室	1 単位	保健学科 2 4 1 講義室 保健学科生理系実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	非該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH22カリ・保健, MH20カリ・保健		
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	⇔	神経・筋機能検査の原理と意義を充分理解し、臨床検査の場で実際に検査できる能力を身に着ける。
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。	⇔	医療の現場において神経・筋機能検査がどのように診断・治療に活用されるか理解し、チーム医療の一員としての責任を自覚することができる。
	MH25カリ・保健・検査, MH23カリ・保健・検査		
授業で学べる「テーマ」	≪基礎的・専門的な知識と技能≫保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	⇔	医療の現場において脳・平衡機能検査がどのように診断・治療に活用されるか理解し、チーム医療の一員としての責任を自覚することができる。
	≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	医療の現場において脳・平衡機能検査がどのように診断・治療に活用されるか理解し、チーム医療の一員としての責任を自覚することができる。
健康長寿			
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	神経・筋機能検査学実習においては、基礎生理学・解剖学で習得した基礎知識を基に、各種神経・筋機能検査が実際に出来るように実習する。また、神経・筋機能に異常をきたす疾患における機能検査結果の解釈について演習する。本授業は、担当教員の医療現場における内科医あるいは臨床検査技師としての実務経験を活かして講義・実習を行う。本授業は、1年次に学んだ「生理学」、「解剖学」の知識を前提に学んでいくことになります。そして、本授業の内容は、4年次の臨床実習における重要な基礎知識となります。		
授業計画	第1回(4月13日)中枢・末梢神経の構造と生理機能 第2回(4月20日)脳波の基礎 第3回(4月27日)正常脳と異常脳波 第4回(5月1日)筋電図の基礎 第5回(5月11日)異常筋電図 第6回(5月18日)神経伝導速度検査 第7回(5月25日)聴力・平衡機能検査・誘発電位 第8回(6月1日)眼底検査・聴性脳幹反応 第9回(6月8日)中間試験 第10回(6月15日)脳波電極装着実習（脳波検査） 第11回(6月22日)脳波・神経伝導速度・聴力・聴性脳幹反応実習 第12回(6月29日)脳波・神経伝導速度・聴力・聴性脳幹反応実習 第13回(7月6日)脳波・神経伝導速度・聴力・聴性脳幹反応実習 第14回(7月13日)脳波・神経伝導速度・聴力・聴性脳幹反応実習 第15回(7月27日)神経筋接合部検査・筋疾患・授業アンケート 第16回(8月3日) 期末試験		
授業の進め方	講義は主としてスライドを用いて行ない、脳神経・筋生理検査（脳波検査・筋電図（神経伝導速度検査））・聴力・ABR（聴性誘発電位）の学内実習を行います。		
テキスト、教材、参考書	教科書 生理機能検査学（医歯薬出版） 参考書 内科学 第10版（朝倉書店） 臨床検査法提要第35版（金原出版）		
成績評価の方法	中間試験（6月8日）、期末試験(8月3日)を行い、実習レポート点も総合して判定します。 中間試験は30点満点、期末試験は100点満点、実習レポート点10点の総計140点の6割以上で合格とします。		
成績評価の基準	筆記試験：授業の内容が理解できていれば「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい問題が解ければ「かなり上にある」、自己学習の高さが伺われる難しい問題が解ければ「卓越している」 レポート：（1）課された内容が記載されている、（2）結果が正確に記述してある、（3）結果に対する考察がきちんと記載してある、（4）自己学習が認められる、（5）洞察力の高さが伺われ、教員を感心させるレベルにある、以上のうち（1）（2）があれば水準、（3）まであれば「やや上にある」、（4）まであれば「かなり上にある」、（5）まであれば「卓越している」		
事前事後学習の内容	事前学習：シラバスと講義スライドを見て次回の授業内容を確認し、教科書を読んでおく．実習の場合には、あらかじめ配布された実習計画書をよく読んで理解し、スムーズに実		

事前事後学習の内容	習に取り組めるように準備する。 事後学習：ノートの整理をしながらよく復習し、理解不足のところは次回質問する。実習の後は、レポートを作成しながら、実習の目的は何を理解し、確認するためのものであったのか考察する。 毎回の授業で、前回含め過去に講義した内容について幾つか質問するので、講義終了後はノートをよく復習しておいてください。 本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間＋自己学習時間15時間＝ 45時間
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	最新の医学的研究にも目を向け、research mindを持ってもらいたい。 質問への対応：矢崎正英 mayazaki@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時 保健学科中校舎4階 矢崎研究室